

2020 年度会誌「情報処理」および「デジタルプラクティス」モニタ募集のお知らせ

会誌編集委員会
デジタルプラクティス編集委員会

会誌「情報処理」および「デジタルプラクティス」をより良くするために編集委員一同努力を続けておりますが、会員の方々の評価や希望をうかがい、今後の改善に役立てるために、モニタ制度を設けております。関心のある方はぜひふるってご応募ください。

応募の資格 本会会員で、モニタの役割を積極的に果たしていただける方。

モニタの役割 「情報処理」巻末の所定用紙または学会 Web ページ (<https://www.ipsj.or.jp/magazine/enquete.html>) から、毎月アンケートに回答する。
◇記事に対する評価 ◇記事に対する感想 ◇意見 ◇記事テーマの提案 ◇そのほか全般的な意見・提案など
注) 記事をすべて読むといったことは必ずしも必要ではありません。自分の立場や問題意識、得意とする分野などを基準とした「独断と偏見による」自由な意見を期待します。

期 間 原則として 1 年間 (2020 年 4 月～2021 年 3 月)。*最長 3 年までとします。

対 象 号 会誌「情報処理」61 巻 5 号～62 巻 4 号、および年に 4 回 Web ページ (<https://ipsj.ixsq.nii.ac.jp/ej/> (PDF 版)) (<https://www.ipsj.or.jp/dp/contents/publication/index.html> (HTML 版)) にて公開される「デジタルプラクティス」(電子版のみ)。

謝 礼 貴重なお意見をいただいた方には薄謝または記念品を贈呈します。

募集人員 特に定めませんが、応募者数によっては当委員会にて調整させていただくことがあります。

応募締切 **2020 年 2 月 27 日 (木) 必着**

*申込書を Fax するか、または E-mail でお申し込みください。

* Web ページ (<https://www.ipsj.or.jp/magazine/topics/2020monitor.html>) でも受け付けています。

そ の 他 ジュニア会員で、会誌 (冊子体) の送付を希望される方には、モニタ期間中会誌を送付いたします。

(先着 50 名、アンケート (12 回) に必ず回答いただくことを条件とします)

希望する場合は、申込書の要望欄に＜会誌送付希望＞とお書きください。

申込/照会先 情報処理学会 会誌編集部門 (モニタ係)

2020 年度会誌「情報処理」および「デジタルプラクティス」モニタ申込書

宛先: 情報処理学会 会誌編集部門 (モニタ係) E-mail: editj@ipsj.or.jp Fax(03)3518-8375

氏 名

会員番号 ()

住 所 〒

所 属

E-mail:

Tel () -

Fax () -

年 齢 (歳)

業種: (a) 企業 (サービス業) (b) 企業 (製造業) (c) 研究機関 (d) 教育機関 (小・中・高校・高専・大学・大学院など)
(e) 学生 (f) 学生 (ジュニア会員) (g) その他

職種: (a) 研究職 (b) 開発・設計 (c) システムエンジニア (d) 営業 (e) 本社管理業務 (f) 会社経営・役員・管理職
(g) 教職員 (小・中・高校・高専・大学・大学院など) (h) 学生 (i) 学生 (ジュニア会員) (j) その他

要望, コメントなど:

● 論文誌ジャーナル掲載論文リスト

Vol.60 No.12 (Dec. 2019)

【特集：ユーザブルセキュリティ】

- 特集「ユーザブルセキュリティ」の編集にあたって 高橋克巳
- 忘れられる権利に配慮した生体認証：爪を用いたマイクロ生体認証 杉本元輝 他
- 眼球一頭部協調運動における生体反射型反応に基づく生体認証方式に関する検討 高橋洋介 他
- スマートフォン上でのフリック入力を対象とした生体ビット列の生成手法に関する一検討 山神 亮 他
- ワンタイム図形生成に基づく個人認証の生成ルールとその評価 石井健太郎 他
- 多数の不連続点に起因する画像の誤認識とそのCAPTCHAへの応用 原 亨 他
- Man-In-The-Browser 攻撃対策を実現する人間・銀行サーバ間のセキュア通信プロトコル 向平浩貴 他
- Helping Johnny to Search: Usable Encrypted Search on Webmail System Tatsuya Midorikawa 他
- A Demographic Perspective of Smartphone Security and its Redesigned Notifications Jema David Ndibwile 他
- テレワーク時のプライバシー懸念に関する調査 大塚亜未 他
- The Effects of Nudging a Privacy Setting Suggestion Algorithm's Outputs on User Acceptability Toru Nakamura 他
- 映像公開可能なプライバシー保護監視カメラシステム 星野光太 他
- セキュリティ対策導入にかかる時間とサイバーリスクレベル変動の関係から探る、過剰なセキュリティ対策の問題とその対策 菊地正人 他
- Understanding Attack Trends from Security Blog Posts Using Guided-Topic Model Tatsuya Nagai 他
- 情報セキュリティに関連するガイドラインのCybersecurity Frameworkに基づいた文書内容の可視化手法の提案とその評価 尾崎敏司
- サイバーセキュリティ対策のための研究用データセット「動的活動観測 2014～2017」 寺田真敏 他
- 文字列構造に着目したWebアプリケーションに対する攻撃のアノマリ検知手法 鐘本 楊 他
- MITB 攻撃手法の分類と対策手法の有効性に関する考察 高田一樹 他
- モバイルネットワークにおける異常フローの分散管理遮断方式 鈴木敏明 他
- Androidにおける端末識別情報送信検出のための動的解析システム 福田泰平 他
- 情報漏洩防止のためのTCPによるネットワークワイドなティント追跡手法 松本隆志 他

【一般論文】

- AnT オペレーティングシステムにおけるLinux 入出力操作機能の利用手法 山内利宏 他
- 集約型自己組織化スマートデバイス位置推定方式SmartFinderのノード間経路長を用いた実機実装評価* 北之馬貴正 他
- IoT デバイスのための柔軟なホスト名自動生成の提案* 柳瀬知広 他
- 鏡像スピーカを用いたスマートフォン高精度3次元測位手法 村上弘晃 他
- 粘菌アルゴリズムを用いた避難経路導出手法の提案† 吉次なぎ 他



*: 推薦論文 Recommended Paper

†: テクニカルノート Technical Note

● 論文誌トランザクション掲載論文リスト

(Dec. 2019)

【論文誌 数理モデル化と応用 Vol.12 No.3】

- 同性間競争によるアオモンイトトンボの交尾時間の進化モデル 宮部 諒 他
- 不均衡データに対する多段階学習を用いたアンサンブルモデルによる2クラス分類アルゴリズムの提案 藤原和樹 他
- 属性間の関連度を用いた分解による概念束の単純化 深谷有吾 他
- 半導体製造工程のモデリングにおける最小二乗最小ノルム解の前処理による解の制約 木村泰己 他
- レプリカ交換モンテカルロ法を用いたMixture of Expertsモデルにおけるベイズ推論 松平京介 他
- 非負値多重行列因子分解と決定木学習による行動パターンと属性情報の分析 小島世大 他
- 含意関係に注目した概念束分解手法の評価 石樽隼人 他
- Bolassoを用いたびまん性肺疾患画像の特徴選択 遠藤瑛泰 他
- Enumeration of Maximally Frequent Ordered Tree Patterns with Height-Constrained Variables for Trees Yusuke Suzuki 他



会員の広場

今月の会員の広場では、10月号へのご意見・ご感想を紹介いたします。まず、特別解説「暗号資産 Libra」については、以下のようなご意見・ご感想をいただきました。

■仮想通貨に関する解説は非常に興味深かったです。最近Libra等が取り上げられていますが、もう少し細かい範囲に目を向けると、CoinExchangeの閉鎖によるいわゆる“草コイン”の動乱等もありますので、引き続き注視したいと思います。(浜辺裕多/ジュニア会員)

小特集「ソーシャル・マジョリティ研究」については、以下のようなご意見・ご感想をいただきました。

■「音として聞こえても意味が分からない」という現象は高齢化とともに日々経験している。その不便や不安を回避すべく工夫している。それについて「説明のできる高齢者」は多いと思う。高齢者集団も視野に入れた方がよいと思う。(匿名希望)

■「ソーシャル・マジョリティ研究」とAI(ロボット)研究が密接に関係することが分かり、「目から鱗」であった。(匿名希望)

■企業の経営変革担当として組織風土改革やイノベーション活動を推進してきた経験から、大変興味深い特集でした。「『コミュニケーション障害』と『コミュ障』はシームレスに繋がっている」との主張は、現場感覚として同感です。「コミュ障」にもフォーカスしていただければと思います。(匿名希望)

「1. ソーシャル・マジョリティ研究とは何か」

■新しい学術分野が生まれる過程を目の当たりにした気がして、大変新鮮だった。(伊藤雅樹)

小特集「セキュリティ人材育成の現状と実践」については、以下のようなご意見・ご感想をいただきました。

■このままだとセキュリティ人材の不足は解消されないだろうと、日本の情報セキュリティに対する危機感がより増えました。(匿名希望)

■どのようにして、非エンジニアへのセキュリティ教育を抽象的なものにとどめず、初等中等もしくは高等教育で組み込んでいくか、強く興味を持ちました。(匿名希望)

■事例紹介ばかりで課題解決への掘り下げが物足りない。

(匿名希望)

「0. 編集にあたって」

■人材不足はどの分野でも同じこと。その中でわざわざセキュリティを取り上げた編集の意図が読み取れなかった。

(伊藤雅樹)

「1. セキュリティ人材育成の現状と今後の展望」

■育成側とユーズ企業側のミスマッチは重要な指摘。これが日本だけの特徴なのか、現時点での一過性のものなのか、専門教育におけるありがちな問題なのか、本分野固有の問題がそこにあるのか、一層のご研究成果をお待ちします。その際は、ミスマッチに対する教育側からのご対応もご紹介いただければ幸いです(かつて別分野での専門人材育成プログラム策定で類似の状況に苦心した記憶があり、他人事ならず拝読)。(中島一郎)

「3. 社会におけるセキュリティ人材育成事例(2)」

■図解がなく、専門外の者には理解するのが難しい。

(匿名希望)

教育コーナー「べた語義」については、以下のようなご意見・ご感想をいただきました。

■モニタでないと読み飛ばしていたかもしれないのですが、教材をWebサイトで紹介しているを書いてあり、サイトを訪ねてみました。いくつかリンクが切れていたものがあり全部は拝見できなかったのですが、とても参考になる工夫された教材が多くあがっており、教材の内容をもっと紹介した記事をぜひ執筆していただきたいと思いました。(柏野和佳子)

連載「論文必勝法」については、以下のようなご意見・ご感想をいただきました

■事例を交えて分かりやすく述べられており大変ありがたかったです。詳細については参考文献が示されており、論文を書く際に参考にしようと思います。(匿名希望)

連載「情報の授業をしよう!中学校におけるプログラミング教育」については、以下のようなご意見・ご感想をいただきました。

■学習指導要領の変遷とともにメタレベルで子どもたちにどのようなことを教えたいのかを周到に準備をされた上で実際の授業での指導にあたられている先生の様子が見てとれて良かったと思います。ネットワークの仕組みを理解するところから一歩踏み込んでセキュリティについて考えさせることを記述しているところなどはとても上手に授業を組み立てておられるのだろうと感じました。子どもたちにどのように伝えておられるのかをもう少し詳しく書かれているとさらに良かったと思います。(滝内邦弘)

連載「買い物自慢：DPT-RP1 はいいぞ」については、以下のようなご意見・ご感想をいただきました。

■購入物の写真掲載を希望します。 (匿名希望)

連載「5分で分かる!? 有名論文ナメ読み：Anantha P. Chandrakasan et al. : Low-Power CMOS Digital Design」については、以下のようなご意見・ご感想をいただきました。

■パイプラインの考え方は、分かりやすく興味を持った。パラレル処理の説明がもう少し詳しくればもっと良かった。
(匿名希望)

連載「IT 紀行：競プロ er 増加中！ AtCoder の高橋直さんに会ってみた」については、以下のようなご意見・ご感想をいただきました。

■楽しんで読んでいます。ただ絵より字が多くて読みづらいです。
(匿名希望)

会議レポート「ICWE 2019 会議報告」については、以下のようなご意見・ご感想をいただきました。

■専門外ですが、Web における機械学習の研究の最新動向が分かり、有意義でした。「Lifelong Learning」における知識の再利用という考え方は興味深いと思いました。
(匿名希望)

会誌の内容や今後取り上げてほしいテーマに関して、以下のようなご意見やご要望をお寄せいただきました。今後の参考にいたします。

■未踏ジュニアについて取り上げてほしい。
(國武悠人／ジュニア会員)

■IT と電力の関係をテーマに取り上げてほしい。(匿名希望)

■扱う分野が広がる中で、総論だけでなく少し突っ込んだ記事を引き続き載せてほしいです。
(吉田 寛)

■高校生が無料でプログラミングを学べる場所を紹介してほしい。
(匿名希望／ジュニア会員)

■最近の新しいコンピュータセキュリティ技術について取材してほしい。
(角田洋太郎／ジュニア会員)

■ある程度、斜め読みできるような記事スタイルにしてもらうと助かります。
(匿名希望)

■消費税率の改定に伴い、毎日のように XX pay という言葉を聞く。今回の記事には Libra も取り上げられたが、電子的な決済技術がどのように進展し、どの方向にどうなろうとしているのか、解説していただけるとありがたい。(伊藤雅樹)

■論文はどのような分野でも取り上げて結構ですが、情報処理学会ではコンピュータ技術をあらゆる分野に利用していただけよう技術面でリードしていただき、コンピュータ技術からはずれないでいただきたい。
(匿名希望)

■さらに理解を深めるためのポイントとしての参考文献をいくつか挙げてほしい。
(匿名希望)

■プレゼン必勝法なども読みたい。
(匿名希望)

【本欄担当 伊藤将志、真野 健／会員サービス分野】

これらのコメントは Web 版会員の広場「読者からの声」< URL : <https://www.ipsj.or.jp/magazine/dokusha.html> > にも掲載しています。Web 版では、紙面の制限などのため掲載できなかったコメントも掲載していますので、ぜひ、こちらでも参照ください。会誌や掲載記事に関するご意見・ご感想は学会 Web ページでも受け付けております。今後もより良い会誌を作るため、ぜひ皆様のお声をお寄せください。

皆様にとって会誌をより役立つものとするため、

- ・記事に対する感想、意見
- ・記事テーマの提案
- ・会誌または学会に対する全般的な意見、提言
- ・その他、情報処理技術についての全般的な意見、提言

など自由なご意見、ご感想をお待ちしております。

なお、「道しるべ」については

< URL : <https://www.ipsj.or.jp/magazine/sippitsu/michishirube.html> > でこれからのテーマ案を募集しており、いただいたご意見をまとめております。

※ご意見、ご感想を会誌に掲載させていただいた方には薄謝または記念品を進呈いたします。

掲載に際しては、編集の都合上、ご意見に手を加えさせていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。なお、意見の投稿に伴う、住所、氏名、所属などの個人情報については、学会のプライバシーポリシーに準じて取り扱いたします。 < URL : <https://www.ipsj.or.jp/privacypolicy.html> >

応募先 〒 101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-5 化学会館 4F
一般社団法人 情報処理学会 会誌編集部門 E-mail : editj@ipsj.or.jp Fax (03) 3518-8375
<https://www.ipsj.or.jp/magazine/enquete.html>

ご意見をお寄せ
ください!



IPSJ カレンダー

開催日	名 称	論文等応募締切日	参加締切日	開催地
	論文誌「離散と計算の幾何・グラフ・ゲーム」特集への論文募集 https://www.ipsj.or.jp/journal/cfp/20-T.html	12月31日(火)		
12月14日(土)～	人文科学とコンピュータシンポジウム「じんもんこん2019」 https://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/s-ch2019.html	8月26日(月)	当日可	立命館大学 大阪いばらきキャンパス
12月15日(日)	第172回ハイパフォーマンスコンピューティング研究発表会 https://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/hpc172.html	10月17日(木)	当日のみ	沖縄産業支援センター
12月18日(水)～	第170回データベースシステム研究発表会 https://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/dbs170.html	10月22日(火)	当日のみ	国立情報学研究所
12月19日(木)	2019年度教員免許更新講習(冬・大阪) 【選択必修】 初等中等教育におけるICT活用 https://www.ipsj.or.jp/annai/committee/education/KOSHU2019.html		11月30日(土) 定員になり次第	大阪電気通信大学
12月23日(月)～	2019年度教員免許更新講習(冬・愛知) 【選択必修】 ビクトグラムとセンター試験言語を用いたプログラミング教育 https://www.ipsj.or.jp/annai/committee/education/KOSHU2019.html		11月30日(土)	名古屋文理大学
12月24日(火)	2019年度教員免許更新講習(冬・東京) 【選択必修】 メディア・リテラシーと学校のICT活用 https://www.ipsj.or.jp/annai/committee/education/KOSHU2019.html		11月30日(土) 定員になり次第	化学会館会議室 (東京都千代田区)
12月26日(木)	第181回マルチメディア通信と分散処理研究発表会 https://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/dps181.html	11月22日(金)	合宿形式につき参加申込要 詳細はWebページで 確認のこと	アクティブリゾート 宮城蔵王
12月26日(木)～	2019年度教員免許更新講習(冬・大阪) 【選択】 プログラミング体験に適した処理系とその特徴 https://www.ipsj.or.jp/annai/committee/education/KOSHU2019.html		11月30日(土) 定員になり次第	大阪電気通信大学
12月27日(金)	2019年度教員免許更新講習(冬・愛知) 【選択】 情報の科学の教育とプログラミング教育手法 https://www.ipsj.or.jp/annai/committee/education/KOSHU2019.html		11月30日(土) 定員になり次第	名古屋文理大学
12月27日(金)	2019年度教員免許更新講習(冬・大阪) 【選択】 初等中等教育における情報教育 https://www.ipsj.or.jp/annai/committee/education/KOSHU2019.html		11月30日(土) 定員になり次第	大阪電気通信大学
2020年				
	論文誌「ユーザブルセキュリティ」特集への論文募集 https://www.ipsj.or.jp/journal/cfp/20-Z.html	2月24日(月)		
1月10日(金)～	第61回プログラミング・シンポジウム http://www.ipsj.or.jp/prosym/			ラフォーレ倶楽部 伊東温泉湯の庭
1月12日(日)	第186回ヒューマンコンピュータインタラクション研究発表会 https://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/hci186.html	11月15日(金)	当日のみ	大演信泉記念館 (沖縄県石垣市)
1月15日(水)～	第127回プログラミング研究発表会 https://sigpro.ipsj.or.jp/pro2019-4/	11月15日(金)	当日のみ	医療イノベーション 推進センター
1月16日(木)	International Conference on High Performance Computing in Asia Pacific Region (HPCAsia2020) http://sighpc.ipsj.or.jp/HPCAsia2020/			アクロス福岡
1月15日(水)～	第231回システム・アーキテクチャ・ 第190回システムとLSIの設計技術合同研究発表会 https://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/arc231sldm190.html	11月12日(火)	当日のみ	慶應義塾大学 日吉キャンパス
1月23日(木)～	第109回グループウェアとネットワークサービス・ 第27回コンシューマ・デバイス&システム・ 第24回デジタルコンテンツクリエイション合同研究発表会 https://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/gn109cds27dcc24.html	11月13日(水)	当日のみ	隠岐島文化会館 (島根県隠岐郡)
1月23日(木)～	第220回コンピュータビジョンとイメージメディア研究発表会 https://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/cvim220.html	11月8日(日)	当日のみ	奈良先端科学技術大学院 大学
1月24日(金)	高度交通システム (ITS) 研究フォーラム 2020 https://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/itsf2020.html		1月15日(水) 当日可 *論文集が不足した場合は 事前申し込み優先	慶應義塾大学 日吉キャンパス
1月24日(金)～	ウィンターワークショップ2020・イン・京都 1月25日(土)			YIC 京都工科大学自動車大学校
1月29日(水)～	第176回アルゴリズム研究発表会 https://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/al176.html	11月27日(水)	当日のみ	下呂温泉
1月30日(木)	第108回オーディオビジュアル複合情報処理研究発表会 https://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/avm108.html		当日のみ	沖縄セルラー電話 株式会社(予定)
2月27日(木)～	第36回セキュリティ心理学とトラスト研究発表会 https://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/spt36.html	1月16日(木)	当日のみ	沖縄県青年会館
2月28日(金)	情報処理学会 第82回全国大会 https://www.ipsj.or.jp/event/taikai/82/			金沢工業大学 扇が丘キャンパス
3月2日(月)～	インタラクション2020 https://www.interaction-ipsj.org/2020/	12月23日(月)	当日可	学術総合センター内 一橋講堂
3月3日(火)	第177回アルゴリズム研究発表会 https://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/al177.html	1月21日(火)	当日のみ	東北大学 青葉山東キャンパス

[トピックス]

11 月 15 日	人材募集情報 (Vol.60 No.12)
11 月 15 日	会誌「情報処理」Web カタログ (Vol.60 No.12)
11 月 12 日	第 49 回日本産業技術大賞 候補募集
11 月 12 日	論文誌「離散と計算の幾何・グラフ・ゲーム」特集 論文募集
11 月 8 日	【締切延長 11 月 15 日まで】2019 年度マイクロソフト情報学研究賞候補者推薦募集
11 月 6 日	論文誌「ユーザブルセキュリティ」特集 論文募集
11 月 5 日	2020 年 IPSJ/ACM Award for Early Career Contribution to Global Research 候補者推薦募集
10 月 23 日	論文誌「“Applications and the Internet” in Conjunction with Main Topics of COMPSAC2019」特集 論文募集
10 月 21 日	2019 年 8 月から 10 月までの台風および停滞前線による豪雨および暴風雨災害について



おひいすらん

あけましておめでとうございます。皆様ご家族お揃いで、良いお正月をお迎えのこととお喜び申し上げます。

事務局長を拝命し 2 年強が経ち、昨年は学会の年間事業をより深く体験させていただいた年でありました。学会活動の奥深さを再認識するとともに、いくつかの進展や自分なりのより深い課題も感じることができました。

まず昨年の最大の成果はジュニア会員増強により総会員数が増加に転じたことです。ジュニア会員活性化委員会や中高生ボスターセッションなどの新規施策が実を結びました。新しい令和の時代に入り本会の会員や職員も世代交代のステージに入ったことを予感します。一昨年更改したマイページの復活と会員サービスのさらなる機能向上による継続的会員増加策も目指していきます。

また昨年は 2 年ごとの会長交代年であり産業界から江村会長が就任されました。今までの会員減の本質的原因である産業界の学会離れに大きな施策を打つべく、いくつかの改革が着手されました。デジタルプラクティスの制度改革、ソフトウェアジャパンの発展的解消、CITP の拡大展開策、規格部門では IoT や AI 分野の標準化テーマの加速化、などが挙げられますが、今年も継続検討が必要で、その結果として産業界会員数減の食い止めの効果を期待しています。

国際化に関しては、IEEE-CS や ACM とのジョイントアワードが確立しました。情報分野における国際学会間の重要な賞として受賞式を含め継続的イベントに定着していくことが楽しみです。また CJK 連携においても中国 CNCC、韓国

KSC での相互交流や Joint Technical Forum も活性化しました。今年は IFIP での活動強化やオーストラリア ACS、東南アジア SEARCC との将来連携の可能性も期待されます。

調査研究分野においては、オープンサイエンス研究グループの新設、量子ソフトウェア研究会の新設（予定）など目まぐるしい IT 分野の技術革新に追従した体制強化が行われました。また NII と共同開催の研究ラウンドテーブルでは、全研究会が一堂に会し将来の IT 分野の科学技術政策を見据えた熱い議論が行われました。

その他数々の活動成果がありましたが、事務局でも時差勤務など業務効率化の試みを実施しました。

一方昨年も日本中で台風豪雨災害に見舞われ、学会イベントなども一部影響を受けました。被災された方々にお見舞い申し上げますとともに、IT や AI 活用による防災技術への貢献が定常的な課題であることを痛感しました。

さて今年はオリンピック開催の年です。IFIP60 周年と同時に本会 60 周年の節目でもありエポックメイキングな喜ばしい出来事や成果が今からとても楽しみです。また新公益法人制度による移行法人としての最終年度でもあり、今までの事業の総括や法人経営としての総決算とともに新たな時代に向けた学会長期計画の立案も重要な課題となります。

役員の皆様のご指導ご協力を得て、昨年以上に忙しくなる事務局業務を確実にかつ夢を持って遂行していきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

(木下泰三／事務局長)

人材募集 (有料会告)

申込方法: 任意の用紙に件名、申込者氏名、勤務先、職名、住所、電話番号および請求書に記載する「宛名」、Web掲載の有無などを記載し、掲載希望原稿（[募集職種、募集人員、(所属)、専門分野、(担当科目)、応募資格、着任時期、提出書類、応募締切、送付先、照会先]）を添えて下記の申込先へ、E-mail、Fax または郵送にてお申し込みください。

*都合により編集させていただく場合がありますので、ご了承ください。

申込期限: 毎月15日を締切日とし翌月号（15日発行）に掲載します。

掲載料金: 国公立教育機関、国公立研究機関 税抜 20,000 円（税込 22,000 円）

賛助会員（企業） 税抜 30,000 円（税込 33,000 円）

賛助会員以外の企業 税抜 50,000 円（税込 55,000 円）

*本会誌へ掲載依頼いただいた場合に限り、追加料金 税抜 4,000 円（税込 4,400 円）で同一内容を本会 Web ページに掲載できます。

申込先: 情報処理学会 会誌編集部（有料会告係） E-mail: editj@ipsj.or.jp Fax(03)3518-8375

*原稿受付の際には必ず原稿受領のお知らせを差し上げています。もし3日以内（土日祝日除く）に返信がない場合は念のため確認のご連絡をください。

*特に指定がないかぎり履歴書には写真を貼付のこと

■青森大学ソフトウェア情報学部 ソフトウェア情報学科

募集人員 助教または講師 1名（常勤、任期なし）

勤務地 青森大学東京キャンパス（東京都江戸川区清新町 2-10-1）

青森大学青森キャンパス（青森県青森市幸畑 2-3-1）

*採用にあたって希望調整します

専門分野 情報通信、データサイエンス、機械学習、人工知能、情報セキュリティ、組込みシステム、情報デザイン、教育工学（またこれらにかかわらず、広く情報処理技術に関連する分野も対象とします）

担当科目 卒業研究、ゼミを含む情報工学分野の複数科目（講義、演習）およびプログラミング演習

応募資格 博士の学位を有するか着任までに取得見込み、または同等の業績や実務経験を有し、教育・研究に熱意のある方

着任時期 2020 年 4 月 1 日

提出書類 履歴書（連絡先として E-mail アドレスも明記）、研究業績リスト（著書、査読付き論文、国際会議、特許等に区分）、主要論文別刷またはコピー（3 編程度）、これまでの研究概要（A4 用紙 2 枚程度）、学会および社会における活動（学会活動、社会貢献、地域貢献、実務経験などの実績）、教育・研究に関する抱負（A4 用紙 1～2 枚程度）、本人に関する所見を求め得る人（2 名）の氏名と連絡先（所属、住所、電話、E-mail アドレス）

応募締切 2020 年 1 月 31 日（必着）

送付先/照会先 〒030-0943 青森県青森市幸畑 2-3-1

青森大学ソフトウェア情報学部長 角田 均

E-mail: tsunoda@aomori-u.ac.jp Tel(017)738-2001（代表）

「ソフトウェア情報学部教員応募書類在中」と朱書きし、（簡易）書留をお願いします

*応募書類は返却しませんのでご了承ください

その他 【選考方法】書類選考を経て面接（模擬授業を含む）を実施します。面接にあたり旅費・滞在費のうち一定額を支給します

■大分大学理工学部共創理工学科 知能情報システムコース

募集人員 教授または准教授 1名

専門分野 ヒューマンインタフェース・インタラクション、特に、VR（仮想現実）、AR（拡張現実）、MR（複合現実）、画像処理等
担当科目 計算機科学の導入的科目、専門科目（オペレーティングシステム、コンピュータグラフィックス、情報英語など）、大学院工学研究科の専門科目

応募資格 (1) 専門分野で博士または Ph.D. の学位を有する方、(2) 専門分野に業績があり、大学院博士後期課程の研究指導を担当できる方が望ましい、(3) 情報工学にかかわる研究に熱意があり、海外の情勢を反映した新しい研究分野にも挑戦できる意欲を持続できる方、(4) 学生に対する教育・指導にも強い使命感と責任感を持って取り組まれる方、(5) 大学における管理・運営の業務にも積極的に貢献される方、(6) 医工連携や地域連携活動、外部資金獲得に積極的に取り組まれる方

着任時期 2020 年 10 月 1 日

提出書類 (1) 個人調書（様式は理工学部 Web ページの教員公募からダウンロード）、(2) 教育および学生指導に対する考えや抱負、(3) 今後の研究計画、(4) 主要論文別刷（5 編、コピーでも可）、(5) 応募者について問合せができる方 2 名

応募締切 2020 年 2 月 28 日（必着）

送付先 〒870-1192 大分県大分市大字旦野原 700 番地

大分大学理工学部総務係 係長 高野靖信

照会先 知能情報システムコース コース長 古家賢一

E-mail: furuya-kenichi@oita-u.ac.jp Tel(097)554-7879

その他 詳細については、必ず理工学部 Web ページ（<https://www.st.oita-u.ac.jp/recruit/>）をご参照ください

株式会社 近代科学社（賛助会員）
からのお知らせ

貴学会ならびに学会員の皆様方におかれましては、平素より弊社にご支援・ご高配を賜り、ここに厚く御礼申し上げます。

お蔭をもちまして、弊社は2019年8月に創立60周年を迎えることができました。

この間、出版を通じて学術・社会貢献に微力を尽くしてまいりましたが、この節目に当たり、記念事業として『AI事典 第3版』を刊行いたしました。

本書は、1988年にUPU社から刊行された初版『AI事典』の編集方針を踏襲したものでございますが、まことに残念なことに、初版『AI事典』（以下「初版」）自体は現在、絶版状態となっております。

今般、弊社は当時の初版編集委員会より、第3次AIブームといわれている現在においてもその内容の学術的価値は依然として変わらず多大なものがあるとして、初版復刊の要請を頂戴いたしました。

初版編集委員会からの初版復刊ご要請趣旨：

1. 弊社が電子出版により刊行すること
2. 同電子出版における著作権利用を無償で許諾すること
3. 同電子出版にあたり、弊社が可能な限り廉価で市場に提供すること

上記を受け、弊社は創立60周年記念事業の柱の一つといたしまして、本ご要請にお応えし、初版編集委員会ご協力のもと、同書の電子出版による復刊に着手することといたしました。なお、同復刊の時期は2020年3月頃を予定しております。

----- 初版『AI事典』執筆者の皆様へのお願い -----

初版の執筆者の皆様におかれましては、本件趣旨をご理解いただき、上記の弊社電子出版による初版復刊のご承諾をいただきたく、ここに謹んでお願い申し上げます。

本件につきましてご承諾いただけます場合には特段の連絡はご不要ですが、お問合せなどがございます場合には、2020年2月末日までに、下記連絡先へご一報くださいますよう、お願い申し上げます。

2019年12月吉日
株式会社 近代科学社
代表取締役社長 井芹昌信

担当：小山 透・富高琢磨
〒162-0843 東京都新宿区市谷田町二丁目7番地15
Tel. 03-3260-6161
Fax. 03-3260-6059
メール reader@kindaikagaku.co.jp

情報処理学会創立 60 周年記念（第 82 回）全国大会
イベント企画のみの聴講参加は「無料」!!
 事前申込はこちらから⇒ <https://www.ipsj.or.jp/event/taikai/82/>

情報処理学会創立 60 周年記念（第 82 回）全国大会 聴講事前申込
『サステイナブルな情報社会』

大会会期：2020 年 3 月 5 日（木）～7 日（土）
 大会会場：金沢工業大学 扇が丘キャンパス（石川県野々市市扇が丘）
 共 催：金沢工業大学
 後 援：全国高等学校情報教育研究会

情報処理学会創立 60 周年記念（第 82 回）全国大会の「大会聴講参加」の事前申込を受付中です。

- イベント会場・特別会場において開催される「特別講演／招待講演／イベント企画／各種展示」を聴講・ご覧になる場合
 →「大会イベント企画限定聴講参加」（無料）
- 上記に加え、「一般セッション／学生セッション」を聴講する場合
 →「大会共通聴講参加」（有料）

イベント企画のみ聴講希望の方は、大会 Web ページから事前申込みをする際、「大会イベント企画限定聴講参加」にお申し込みください。
 通常の一般セッション・学生セッションも聴講希望の場合は、「大会共通聴講参加」にお申し込みください（聴講参加費は有料となります）。

事前申込受付期間：2019 年 12 月 6 日（金）～2020 年 2 月 7 日（金）

招待講演・特別講演企画【聴講参加無料】：60 周年を記念した招待講演 4 件、特別講演 5 件を予定しております。

招待講演-1	6 日（金）16：45～17：00	未定（The Korean Institute of Information Scientists and Engineers）
招待講演-2	6 日（金）17：00～17：15	未定（China Computer Federation）
招待講演-3	6 日（金）17：15～17：30	未定（IEEE Computer Society）
招待講演-4	6 日（金）17：30～17：45	未定（Association for Computing Machinery）
特別講演	5 日（木）14：00～17：00	「SDGs の実装に向けた IT の役割（仮）」
	5 日（木）17：10～18：00	「初音ミク ミニライブ」 ※事前抽選制
	6 日（金）9：30～11：30	「～コンピュータパイオニアが語る～『私の詩と真実』」
	6 日（金）12：40～14：30	「歴代会長パネル討論」
	7 日（土）15：20～17：20	IPSJ-ONE

イベント企画【聴講参加無料】：各イベント企画では、その分野の最前線で活躍されておられる方をお招きし、講演・パネル討論等の開催を予定しております。

第 1 イベント会場 6 号館 334 多目的ホール	5 日 9：30～12：00	「これからの一般情報教育 why, what, how」
	7 日 9：30～12：00	「情報学のトップ才能からエリートへー才能の発掘、接続、達人の養成ー」
第 2 イベント会場 23 号館 218	5 日 9：30～12：00	「DX（デジタルトランスフォーメーション）で『2025 年の崖』をどう超えるか」
	6 日 9：30～11：30	「はじめての人文情報学：情報処理技術で文化資料の分析に挑戦しよう！」
	6 日 12：40～15：10	「IoT に関する国際標準化動向と日本の取組み」
	7 日 9：30～12：00	「激変！情報入試を取り巻く環境」
	7 日 13：10～15：10	「地域で自走するプログラミング教育」
第 3 イベント会場 23 号館 221	5 日 9：30～12：00	「2019 年サイバー事件回顧録～技術と法制度の両面から～」
	6 日 9：30～11：30	「誰のための契約なのか？～アジャイル開発のソフトウェアモデル契約」
	6 日 12：40～15：10	「来たれ！ワークライフバランス伝道師 2020」
	6 日 15：30～17：45	「8th IPSJ International AI Programming Contest SamurAI Coding 2019-20 World Final」
	7 日 9：30～12：00	「AI・ビッグデータ解析、IoT 領域人材のプロフェッショナル資格化を考える」
	7 日 13：10～15：10	「デジタルプラクティスライブ（仮）」

第4イベント会場 23号館330	5日	9:30～12:00	「研究100連発 in 石川」
	6日	9:30～11:30	「MEC(Multi-access Edge Computing) への挑戦」
	6日	12:40～15:10	「論文必勝法」
	7日	9:30～12:00	「CC2020: Computing Curricula 2020 プロジェクト」
	7日	13:10～15:10	「信用スコアの期待と課題」
第5イベント会場23号館211	7日	9:30～12:00	「初等中等教員研究発表セッション」
特別会場 23号館105/26・27号館	7日	9:30～13:00	「Exciting Coding! Junior ～みんなで一緒にプログラミングしよう～」
	7日	11:00～13:00	「『先生質問です!』公開セッション」
	7日	13:10～15:10	「中高生情報学研究コンテスト」

一般セッション・学生セッション【聴講参加 有料】:

約1,500件の研究成果発表があります。大会3日間でおおよそ30会場を使用して、190あまりのセッションが生まれ、活発な発表、議論・討論が行われます。

懇親会【有料】:

毎回多数の方にご参加をいただき親睦を深めております。当日申込のみとなります。

開催日時: 2020年3月6日(金) 18:00～20:00(予定)

開催会場: 金沢工業大学 扇が丘キャンパス内

■聴講参加費・講演論文集代・懇親会参加費(税込)

申込種別	予約価格(2/7迄)	当日
大会イベント企画限定聴講参加	無料	無料
大会共通聴講参加(正会員) *全論文のPDFアクセス権付	9,000円	10,000円
大会共通聴講参加(一般非会員) *全論文のPDFアクセス権付	15,000円	17,000円
大会共通聴講参加(学生会員・ジュニア会員・学生非会員)	無料	無料
懇親会参加 一般(正会員・一般非会員)	—	5,000円
懇親会参加 学生(学生会員・学生非会員)	—	3,000円
懇親会参加 学生(ジュニア会員)	—	1,000円
講演論文集分冊(個人・法人問わず)	13,000円(送料込)	14,000円
講演論文集セット *DVD-ROM1枚付き(個人・法人問わず)	60,000円(送料込)	66,000円
講演論文集 DVD-ROM(個人)	10,000円(送料込)	
講演論文集 DVD-ROM(法人)	60,000円(送料込)	

■留意事項

※「大会イベント企画限定聴講参加」は、特別講演、招待講演、イベント企画、各種展示のみ聴講参加可能です。一般セッション・学生セッションの聴講はできませんのでご注意ください。

一般セッション・学生セッションも聴講参加希望の場合には、大会共通聴講参加(有料)のほうにお申し込みください。

※「大会共通聴講参加」は、一般セッション・学生セッションを含む大会すべてのセッションの聴講参加が可能です。

※DVDは大会参加者限定で会場特別販売(5,000円)いたします。

※講演論文集、DVD-ROM共に、大会開催前の事前発送は致しておりません。受取りは大会終了後の郵送となります。当日会場でも販売いたします。

※講演参加申込の方、座長の方、イベント企画者および登壇者は聴講参加申込は不要です。聴講参加をお申し込みになりますと二重申込となりますのでご注意ください。

■聴講参加および講演論文集の予約申込、詳細は、以下のサイトからお願いいたします。

第82回全国大会公式Webサイト <https://www.ipsj.or.jp/event/taikai/82/>

■問合先

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-5 化学会館4F

一般社団法人情報処理学会 事業部門

電話 (03) 3518-8373

FAX (03) 3518-8375

E-mail: ipsjtaikai@ipsj.or.jp

◆◆ 有料会告について ◆◆

本会の主催・共催行事および協賛・後援記事の次第書（論文募集，参加案内等）の本誌掲載については，下記により有料にて取り扱っていますのでお知らせします。

記

■掲載条件

件名	内容	掲載単位	掲載料金（税抜）	
論文募集／ 参加者募集	国際会議、シンポジウム、ワークショップ、講演会、講習会などの論文募集・参加者募集	1 ページ、1/2 ページ または 1/4 ページ	(主催・共催)	
			1 ページ	50,000 円
			1/2 ページ	30,000 円
			1/4 ページ	20,000 円
			(協賛)	
			広告として取り扱う	
人材募集	国公立教育機関、国公立研究機関、 企業の人材募集	10 行程度	国公立教育機関、国公立研究機関	20,000 円
			賛助会員（企業）	30,000 円
			賛助会員以外の企業	50,000 円
* 本会誌へ掲載依頼いただいた場合に限り、追加料金 4,000 円で同一内容を本会 Web ページに掲載できます。				

■申込方法

任意の用紙に，件名，申込者氏名，勤務先，職名，住所，電話番号および請求書宛先，Web 掲載の有無（人材募集のみ）などを記載し，掲載希望原稿を添えて下記の申込先へお申し込みください。

■原稿の書き方

- 行事次第書： A4 変形判カメラレディまたは PDF ファイル（フォント埋め込み）とします。
(1 ページ) 天地 250mm × 左右 180mm
(1/2 ページ) 天地 120mm × 左右 180mm
(1/4 ページ) 天地 55mm × 左右 180mm
* A4 変形判以外の原稿は縮小または拡大となりますのでご注意ください。

- 人材募集： 次の項目を明記し，E-mail または Fax，郵送にてお送りください。
[募集職種，募集人員，(所属)，専門分野，(担当科目)，応募資格，着任時期，提出書類，応募締切，送付先，照会先]
* なお，都合により編集させていただく場合がありますので，ご了承ください。

■申込期限

毎月 15 日を締切日とし，翌月号（15 日発行）に掲載します。

■掲載料金

掲載号発行日に料金を請求いたしますので，3 カ月以内にお支払いください。

■掲載申込先

一般社団法人 情報処理学会 会誌編集部門（有料会告係）
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-5 化学会館 4F
E-mail: editj@ipsj.or.jp Tel (03) 3518-8371 Fax (03) 3518-8375

☆ジュニア会員サポーター募集中！☆
<https://www.ipsj.or.jp/junior/supporter.html>

本会では、将来の IT 人材として活躍するジュニア会員を育成するため、サポーターを募集しています。サポーターの方々からいただいた資金は、ジュニア会員を対象としたイベントやサービスに使用し、今後充実させていく方針です。

【募集要項】

1. サポーター料金：55,000 円（税込）／1 口
・期間：4 月～翌年 3 月（年度単位）
・口数：1 口から加入いただけます。
2. 申込方法：下記フォームからお願いします。
ジュニア会員サポーター申込書：https://www.ipsj.or.jp/02moshikomi/mem/m-junior_supporter.html
3. バナーの画像ファイルを送信してください。
・サイズ：横幅 600pixel, 高さ 300pixel
・送信先：会員サービス部門 mem@ipsj.or.jp



【サポーター特典】

1. バナー表示とリンク
・表示期間：サポーター期間と同じ
・掲載場所：ジュニア会員のトップページ：<https://www.ipsj.or.jp/junior/>
※ 1 バナー 1 リンクです。口数分まで表示数を増やせます。
 2. チラシ配布
・配布期間：サポーター期間と同じ
・配布場所：全国大会会場など本会指定のイベント会場
※ 1 会場チラシ 1 種類ですが、口数分までチラシの種類を増やせます。
- ◆ バナーとチラシについてお願い ◆
- ・バナーのリンク先や配布チラシはジュニア向けの内容としてください。
 - ・営利目的（高額商品の販売・勧誘）は避けてください。



◆◇「情報処理」Kindle で販売中！◇◇

「情報処理」は Kindle 版でも販売中です！

冊子を持ち運びしなくても、スマホ・タブレット端末さえあればどこでも気軽に会誌を読むことができます。
ぜひご活用ください！

ご購入は Amazon から→ <https://www.amazon.co.jp/>
「情報処理学会 Kindle」で検索



ご寄付のお願い

情報処理学会は、情報処理に関する学術および技術の振興をはかることにより、学術、文化ならびに産業の発展に寄与することを目的に各種事業を戦略的に展開しております。今回、学会活動の更なる活性化を図る上で会員の皆様からご寄付を頂戴いたしたく、お願いを申し上げます。

皆様から頂きますご寄付は

情報技術を通じて、人類及び世界の発展に資するため

情報技術を中心に学術および技術の振興に資するため

将来を担う人材の育成に資するため

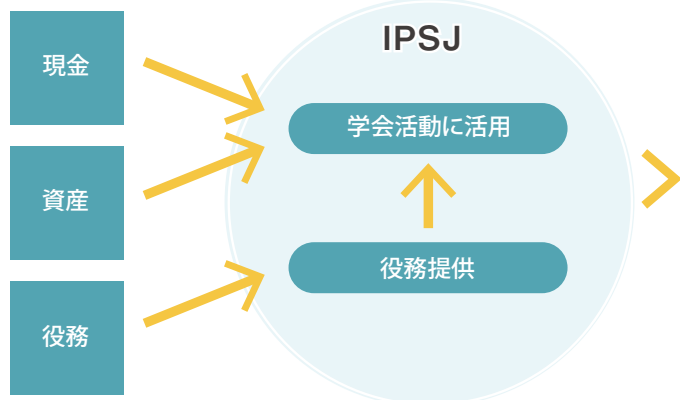
などの観点に照らし、下記の項目に活用させて頂く所存です。

今回ご寄付をお願いしたいのは現金に加えて、情報技術に関わる有形無形の資産（著作物、電子コンテンツ、特許、ソフトウェア等）、ボランティアで提供いただける役務提供（経験や知識に基づく役務）なども含みます。お預かりいたしましたご寄付のうち用途のご指定のあるものは、そのご意向に沿った活用をさせて頂き、ご指定のないものは、その用途を学会活動の活性化に有効な諸事業で活用させて頂きます。今後も会員の皆様の絶大なるご支援・ご協力を頂きながら、学会発展のために努力して参る所存でありますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

* ご注意 情報処理学会は寄付金に対する税金が優遇される特定公益増進法人ではございません。

IPSJ 寄付

会員他寄付



活用先

教育・育成

情報入試 子ども教室 パソコン教室

社会貢献

表彰

国際活動

規格標準化

情報資産保存

学会諸事業

その他



詳しくはこちら

<https://www.ipsj.or.jp/annai/other/donation.html>

お問合せ

一般社団法人 情報処理学会 管理部門

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-5 化学会館4F

TEL 03-3518-8374 FAX 03-3518-8375

✉ soumu@ipsj.or.jp

CONTENTS

Preface

- 2 **How Much Faster Will Mobile Communication Data Speed Be? (Part 5)**
Seizo ONOE (DOCOMO Technology Inc.)

Special Article

- 4 **When a Large-Scale Disaster Occurred, Could the Public Access the Information They Needed? - Ensuring the Accessibility of Information During a Disaster -**
Daiki ISHIMORI (Gehirn Inc.)

Special Features

Envisioning the Future : Lessons from "AI no Idenshi"

- 12 **0. Foreword**
Kentarō FUKUCHI (Meiji Univ.), Hirotaka OSAWA and Dohjin MIYAMOTO (Univ. of Tsukuba)
- 14 **1. How to Draw Sci-Fi Manga : In the Case of Kyuri Yamada**
Kyuri YAMADA (Manga Artist)
- 18 **2.1. Consideration about a Duplication of Personality**
Itaru KURAMOTO (The Univ. of Fukuchiyama)
- 21 **2.2. A Society in Which the Other Self in the Body is Personalized : Excessive Intentionality for AI and Identity Sampling Bias**
Junji WATANABE (NTT Communication Science Labs.)
- 25 **2.3. Hyper AI's Diary**
Taro MAEDA (Osaka Univ.)
- 29 **2.4. The Invention of Electrical Gastronomusic**
Hiromi NAKAMURA (National Institute of Advanced Industrial Science and Technology (AIST))
- 34 **2.5. A Naked Ear Meets Natural Sounds**
Hirotaka TERASHIMA (NTT Communication Science Labs.)
- 36 **2.6. A Study of Canna**
Jun KATO (National Institute of Advanced Industrial Science and Technology (AIST))
- 41 **2.7. Coexistence and Fusion between Living-Being-Like Robots and Humans**
Tomoko YONEZAWA (Kansai Univ.)
- 45 **2.8. Mechanical Social Touch**
Masahiro SHIOMI (ATR)
- 49 **2.9. Funeral for a Sleeping Android**
Ryuma NIIYAMA (The Univ. of Tokyo)
- 54 **2.10. The History of the Decline and Fall of the Archives**
Takashi MIYAMOTO (The Univ. of Tokyo)
- 58 **2.11. Imagine and Create a Future Society Where Everyone Does Science**
Yuta MIZUNO (Hokkaido Univ.)

- 62 **2.12. The Real is (In)variable**
Sho SAKURAI (The Univ. of Electro-Communications)
- 66 **2.13. Shared Baby and Your Arm**
Ai HASEGAWA (The Univ. of Tokyo)
- 71 **3. Review Meeting with Kyuri Yamada**
Kyuri YAMADA (Manga Artist), Kentarō FUKUCHI (Meiji Univ.), Hirotaka OSAWA, Dohjin MIYAMOTO (Univ. of Tsukuba), Koichiro ETO (National Institute of Advanced Industrial Science and Technology (AIST)), Itaru KURAMOTO (The Univ. of Fukuchiyama), Junji WATANABE (NTT Communication Science Labs.), Taro MAEDA (Osaka Univ.), Hiromi NAKAMURA (The Univ. of Tokyo), Hirotaka TERASHIMA (NTT Communication Science Labs.), Jun KATO (National Institute of Advanced Industrial Science and Technology (AIST)), Tomoko YONEZAWA (Kansai Univ.), Masahiro SHIOMI (ATR), Ryuma NIIYAMA, Takashi MIYAMOTO (The Univ. of Tokyo), Yuta MIZUNO (Hokkaido Univ.) and Sho SAKURAI (The Univ. of Electro-Communications)

"Peta-gogy" for Future

- 79 **While I Draw Illustrations for "Peta-gogy"**
Miyu KUNO (A Company Employee) and Yasushi KUNO (The Univ. of Electro-Communications)
- 80 **The Weight of 100 Issues**
Eiko TAKAOKA (Sophia Univ.)
- 85 **Designing Social Knowledge in Programming Classes for Novice Learners**
Toshinori SAITO (Seisa Univ.)

Let's Learn Informatics

- 94 **Elementary School Programming Education in the Framework of Subject Education**
Takumi SHIMIZU (Ibaraki Univ. Elementary School)

How to Pass the Paper Review

- 102 **If Requested for Review : How to Write a Referee's Report**
Hiroyoshi WATANABE (Teikyo Univ.)

- 78 **Shopping Boast**
90 **Biblio Talk**
92 **Skimming a Famous Paper in Five Minutes**
108 **IT Travelog Manga**
112 **Conference Report**
114 **Conference Report**

読後のご意見をお送りください

本誌では、現在約 120 名の方々に毎号のモニタをお願いしておりますが、より多くの読者の皆さんからのご意見、ご提案をおうかがいし、誌面の充実に役立てていきたいと考えておりますので、毎号巻末に掲載しております所定の用紙または Web ページ (<https://www.ipsj.or.jp/magazine/enquete.html>) をお使いいただき、奮って事務局までお寄せください。

一般社団法人 情報処理学会 会誌編集部門

〒 101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-5 化学会館 4F E-mail: editj@ipsj.or.jp Fax:(03)3518-8371

ご意見をお寄せください！

【1月10日頃までにお出ください】

宛 先 一般社団法人 情報処理学会 モニタ係（下記のいずれから送付できます）
<https://www.ipsj.or.jp/magazine/enquete.html> Fax(03)3518-8375 E-mail: editj@ipsj.or.jp
 （E-mail で送信される場合は、10-1-a のようにコードでお答えください）
 ※ご意見の投稿に伴う、住所、氏名、所属などの個人情報については、学会のプライバシーポリシーに準じて取り扱いいたします。
<https://www.ipsj.or.jp/privacypolicy.html>

[コード]

[1] ご氏名

[2] ご所属 Tel. () -

[3] E-mail:

[4] 業種：(a) 企業（サービス業）(b) 企業（製造業）(c) 研究機関 (d) 教育機関（小・中・高校・高専・大学・大学院など）
 (e) 学生 (f) 学生（ジュニア会員）(g) その他..... 4- []

[5] 職種：(a) 研究職 (b) 開発・設計 (c) システムエンジニア (d) 営業 (e) 本社管理業務
 (f) 会社経営・役員・管理職 (g) 教職員（小・中・高校・高専・大学・大学院など）
 (h) 学生 (i) 学生（ジュニア会員）(j) その他..... 5- []

[6] 年齢：(a) 10代 (b) 20代 (c) 30代 (d) 40代 (e) 50代 (f) 60代以上..... 6- []

[7] 性別：(a) 男性 (b) 女性..... 7- []

[8-1] あなたはモニタですか？：(a) はい (b) いいえ..... 8-1- []

[8-2] あなたのご意見は「会員の広場」（会誌および Web）に掲載される場合があります。その場合：
 (a) 実名可（氏名のみ掲載）(b) 匿名希望 (c) 掲載を希望しない..... 8-2- []

[9] どちらの媒体で記事をお読みになりましたか？
 (a) 冊子版 (b) 情報学広場（電子図書館）(c) Kindle (d) fujisan (e) その他..... 9- []

[10] 今月号（2020年1月号）の記事は良かったですか。下記の記事すべてについて評価をご回答ください。
 [a…大変良い b…良い c…普通、どちらとも言えない d…悪い e…読んでいない]

巻頭コラム：移動通信のデータ速度はどこまで上がるか？（パート5）..... 10-1- []

特別解説：大規模災害時に市民は情報にアクセスできたのか..... 10-2- []

特集：『AI の遺電子』に学ぶ未来構想術

0. 編集にあたって..... 10-3- []

1. SF 漫画の作りかた 山田胡瓜の場合..... 10-4- []

2.1. 個性とその複製に関する一考察..... 10-5- []

2.2. 「自分の中のもう一人の自己」が人格化された社会について..... 10-6- []

2.3. 「超 AI もつらいよ」..... 10-7- []

2.4. カレンとミライの小即興曲..... 10-8- []

2.5. はだかの耳、虫の声..... 10-9- []

2.6. カンナたちの研究..... 10-10- []

2.7. 生物らしさのあるロボットと人間の融合..... 10-11- []

2.8. 機械仕掛けのソーシャルタッチ..... 10-12- []

2.9. 眠るアンドロイドのお葬式..... 10-13- []

2.10. アーカイブ衰亡史..... 10-14- []

2.11. 誰もが科学する未来の社会をソウゾウする..... 10-15- []

2.12. The real is (in)variable..... 10-16- []

2.13. Shared Baby and Your Arm..... 10-17- []

3. 講評会：山田胡瓜先生を囲んで..... 10-18- []

買い物自慢：高速・大容量 NAS で快適生活..... 10-19- []

べた語義：「べた語義」のイラストを描いて..... 10-20- []

べた語義：100 回の重さ..... 10-21- []

べた語義：初学者向けプログラミングの授業におけるソーシャルな知のデザイン（第2回）..... 10-22- []

ピピリオ・トーク：考えることの科学 推論の認知心理学への招待..... 10-23- []

5分で分かる!? 有名論文ナメ読み：Ian J. Goodfellow et al.: Generative Adversarial Nets..... 10-24- []

情報の授業をしよう！：教科教育の枠組みで実施する小学校プログラミング教育..... 10-25- []

論文必勝法：査読を依頼されたら..... 10-26- []

IT 紀行：第30回高専プロコン！ 宮崎県都市市に行ってきた..... 10-27- []

会議レポート：ACM SIGIR 2019 参加報告..... 10-28- []

会議レポート：DAC 2019 参加報告..... 10-29- []

〔11〕 本号で最も良かった記事は何ですか？ 上記〔10〕の設問の記事番号から1つだけ選び（例：10-8の記事の場合は「8」と記入），その理由をご回答ください。上記に掲載されていない記事の場合はタイトルを直接ご記入ください。

- 〔11-1〕 良かった記事 11-1- []
 〔11-2〕 この記事に対する貴方の立場：a) 専門家 b) 非専門家 11-2- []
 〔11-3〕 選んだ理由（下記から、いくつでも選択可）..... 11-3- []
 a) 技術・研究動向がよく分かった b) 知的興味をかきたてられた c) 新たな知識を得ることができた d) 内容が平易で理解しやすかった
 e) その他（具体的に下記にご記入ください）

〔12〕 本号で最も良くなかった記事は何ですか？ 上記〔10〕の設問の記事番号から1つだけ選び（例：10-8の記事の場合は「8」と記入），その理由をご回答ください。上記に掲載されていない記事の場合はタイトルを直接ご記入ください。

- 〔12-1〕 良くなかった記事 12-1- []
 〔12-2〕 この記事に対する貴方の立場：a) 専門家 b) 非専門家 12-2- []
 〔12-3〕 選んだ理由（下記から、いくつでも選択可）..... 12-3- []
 a) 記事の内容に誤りがあった b) ありきたりの内容だった c) 記事が難しすぎた d) 何を言いたいのか分からなかった e) 宣伝の意図が強すぎる
 f) テーマに興味を持てなかった g) その他（下記に具体的に記入ください）

〔13〕 今月の特集に対する貴方の立場を教えてください。

- 〔13-1〕『AIの遺電子』に学ぶ未来構想術：a) 専門家 b) 非専門家 13-1- []

〔14〕 設問〔10〕で読んでいないと答えた記事について，その理由を教えてください。

〔15〕 会誌のオンライン版ができたらどのような記事を読みたいか，どのようなコンテンツが期待できるか，などご意見がございましたら教えてください。

〔16〕 会誌に対するご意見や感想，著者への質問，巻頭コラムに登場してほしい人物，今後取り上げてほしいテーマなどありましたらご記入ください。（スペースが足りない場合はお手数ですが別紙を追加してください）

■ 各種問合せ先 ■

一般社団法人 情報処理学会（本部） ※支部所在地等詳細はリンクされている各支部ページでご参照ください。

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-5 化学会館 4F Fax(03)3518-8375 <https://www.ipsj.or.jp/>

担 当	E-mail	Tel(ダイヤルイン)	取り扱い内容
■ 会員サービス部門			
会 員	mem@ipsj.or.jp	03-3518-8370	入会，会費，変更連絡，退会，在会証明，会員証，会誌配布，会員特典，会費等口座振替，海外からの送金，賛助会員，電子図書館
■ 会誌編集部門			
会誌編集	editj@ipsj.or.jp	03-3518-8371	会誌「情報処理」の掲載内容，広告掲載，出版，コンピュータ博物館（情報処理技術遺産）
著作権	copyright@ipsj.or.jp		転載許可，著作権
デジタルプラクティス	editdp@ipsj.or.jp		デジタルプラクティス（DP）の編集・査読，DP レポート
図 書	tosho@ipsj.or.jp	03-3518-8374	出版物購入
■ 研究部門			
論文誌	editt@ipsj.or.jp	03-3518-8372	論文誌（ジャーナル／JIP／トランザクション）の編集・査読
調査研究／国際／教育	sig@ipsj.or.jp		研究会登録，研究発表会，研究グループ，シンポジウム，国際会議，IFIP 委員会，情報処理教育委員会，アクレディテーション対応
■ 事業部門			
事 業	jigyo@ipsj.or.jp	03-3518-8373	全国大会，FIT，プログラミングコンテスト，プログラミング・シンポジウム，協賛・後援
技術応用	event@ipsj.or.jp		連続セミナー，短期セミナー，IT フォーラム，ソフトウェアアジア，その他講習会
認定情報技術者制度	ipsj.citp@ipsj.or.jp		認定情報技術者制度
■ 管理部門			
総務／庶務	soumu@ipsj.or.jp	03-3518-8374	総会・理事会，支部，選挙，総務系選奨，関連団体，アドバイザーボード
経 理	keiri@ipsj.or.jp		出納，送金連絡
システム企画	sys@ipsj.or.jp		システム企画，セキュリティ，電子化委員会，電子図書館，IPSJ メールニュース
■ 情報規格調査会			
規格部門	問合せフォーム https://www.itscj.ipsj.or.jp/contact/index.html		ISO/IEC JTC 1での情報技術の標準化業務 〒105-0011 東京都港区芝公園3-5-8 機械振興会館308-3 Tel (03)3431-2808 Fax (03)3431-6493 https://www.itscj.ipsj.or.jp/

本特集の講評会は、都内の小さな貸会議室で、オンライン参加者も加えれば15名がひしめきあうように集い、のべ3時間にわたって行われた。普段の学会関連のミーティングとはだいぶ性質が異なる議論を長時間続けたせいか、終わったころにはみなへとへとになっていた。しかし、出席者の多くが「もっとほかの人が書いた作品を読みたい、議論したい」と感想を述べていた。実際、話し足りなかった面々は講評会終了後に場所を移し、ビール片手に焼肉をつつきながら、熱い議論を続けていた。私たちには未来について語る場がもっと必要なのではないだろう

か、本特集への反響次第で、この試みはさらに多くの分野を巻き込みながら継続的に取り組むことも検討したい。ぜひ、読後の感想を学会までお寄せいただきたい。なお、本特集の企画にあたったJST RISTEX HITE「想像力のアップデート：人工知能のデザインフィクション」通称「AIxSF プロジェクト」では、さまざまなメディアでSFと科学研究との接点をこれまで以上に盛り上げるための取り組みを行っている。あわせてご注目いただければ幸いです。

(福地健太郎／本特集エディタ)



次号(2月号) 予定目次

編集の都合により変更になる場合がありますのでご了承ください。

「特集」ブロックチェーンを実現する技術

Bitcoin 技術のその後の動向／ブロックチェーンの安全性—攻撃や脆弱性とその対策／分散台帳上での匿名送金とその監査についてゼロ知識証明を利用したセキュアプロトコル／分散台帳技術におけるコンセンサス・メカニズム

解説：Bitcoin の革新性が導く Web3 首藤一幸

教育コーナー：ぺた語義

連 載：IT 紀行／5分で分かる!? 有名論文ナナメ読み／買い物自慢／先生、質問です！／情報の授業をしよう！／ビブリオ・トーク

コラム：巻頭コラム

複写される方へ

一般社団法人情報処理学会では複写複製および転載複製に係る著作権を学術著作権協会に委託しています。当該利用をご希望の方は、学術著作権協会 (<https://www.jaacc.org/>) が提供している複製利用許諾システムもしくは転載許諾システムを通じて申請ください。

尚、本会会員(賛助会員含む)および著者が転載利用の申請をされる場合には、学術目的利用に限り、無償で転載利用いただくことが可能です。ただし、利用の際には予め申請いただくようお願い致します。

権利委託先：一般社団法人学術著作権協会
〒107-0052 東京都港区赤坂 9-6-41 乃木坂ビル
E-mail: info@jaacc.jp Tel (03)3475-5618 Fax (03)3475-5619

また、アメリカ合衆国において本書を複写したい場合は、次の団体に連絡してください。
Copyright Clearance Center, Inc.
222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923 USA
Phone: 1-978-750-8400 Fax: 1-978-646-8600

Notice for Photocopying

Information Processing Society of Japan authorized Japan Academic Association For Copyright Clearance (JACC) to license our reproduction rights and reuse rights of copyrighted works. If you wish to obtain permissions of these rights in the countries or regions outside Japan, please refer to the homepage of JACC (<http://www.jaacc.org/en/>) and confirm appropriate organizations.

You may reuse a content for non-commercial use for free, however please contact us directly to obtain the permission for the reuse content in advance.

<All users except those in USA>

Japan Academic Association for Copyright Clearance, Inc. (JAACC)
6-41 Akasaka 9-chome, Minato-ku, Tokyo 107-0052 Japan
E-mail: info@jaacc.jp
Phone: 81-3-3475-5618 Fax: 81-3-3475-5619

<Users in USA>

Copyright Clearance Center, Inc.
222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923 USA
Phone: 1-978-750-8400 Fax: 1-978-646-8600

広告のお申込み

■広告料金表

掲載場所	4 色	1 色
表 2	330,000 円 (税抜)	—
表 3	275,000 円 (税抜)	—
表 4	385,000 円 (税抜)	—
表 2 対向	300,000 円 (税抜)	—
表 3 対向	265,000 円 (税抜)	155,000 円 (税抜)
前付 1 頁	250,000 円 (税抜)	135,000 円 (税抜)
前付 1/2 頁	—	80,000 円 (税抜)
前付最終	—	148,000 円 (税抜)
目次前	—	148,000 円 (税抜)
差込 (A4 変形判 70.5kg 未満 1 枚)	275,000 円 (税抜)	
差込 (A4 変形判 70.5kg ～ 86.5kg 1 枚)	350,000 円 (税抜)	
同封 (A4 変形判 1 枚)	350,000 円 (税抜)	

■「情報処理」

発 行 一般社団法人 情報処理学会
 発行部数 20,000 部
 体 裁 A4 変形判
 発 行 日 毎当月 15 日
 申込締切 前月 10 日
 原稿締切 前月 20 日
 広告原稿 完全版下データ
 原稿寸法 1 頁 天地 250mm × 左右 180mm
 1/2 頁 天地 120mm × 左右 180mm
 雑誌寸法 天地 280mm × 左右 210mm

■問合せ・お申込み先

〒 169-0073 東京都新宿区百人町 2-21-27
 アドコム・メディア (株) (Tel/Fax/E-mail は下に記載)

* 原稿制作が必要な場合には別途実費申し受けます。
 * 同封のサイズ・割引の詳細についてはお問合せください。

掲載広告の資料請求

掲載広告の詳しい資料をご希望の方は、ご希望の会社名にチェック ☐ を入れ、送付希望先をご記入の上、Fax にて（または E-mail にて必要事項を記入の上）アドコム・メディア (株) 宛にご請求ください。

■「情報処理」 61 巻 1 号 掲載広告 (五十音順)

- ☐ インタフェース 表 2 ☐ 三菱電機 表 3
☐ 講談社 表 2 対向
☐ すべての会社を希望

■資料送付先

フリガナ お 名 前			
勤 務 先	所属部署		
所 在 地	(〒 -)		
TEL () -	FAX () -		
ご専門の分野			



お問合せ・お申込み・資料請求は

広告総代理店 **アドコム・メディア (株)**

Tel.03-3367-0571 Fax.03-3368-1519 E-mail: sales@adcom-media.co.jp

賛助会員のご紹介

本会をご支援いただいております賛助会員をご紹介します。
Web サイト (<https://www.ipsj.or.jp/annai/aboutipsj/sanjo.html>) 「賛助会員一覧」のページからも
各社へリンクサービスを行っておりますので、ぜひご覧ください。

照会先 情報処理学会 会員サービス部門 E-mail: mem@ipsj.or.jp Tel.(03)3518-8370

●●● 賛助会員 (20 ~ 50 口)

HITACHI
Inspire the Next

(株) 日立製作所

FUJITSU

富士通 (株)

Orchestrating a brighter world
NEC

日本電気 (株)

MITSUBISHI ELECTRIC
Changes for the Better

三菱電機 (株)

CyberAgent.

(株) サイバーエージェント

IBM

日本アイ・ビー・エム (株)

●●● 賛助会員 (10 ~ 19 口)

RECRUIT

(株) リクルート

Google

グーグル合同会社

docomo

(株) NTT ドコモ

TOSHIBA

(株) 東芝

NTT

日本電信電話 (株)

Microsoft

日本マイクロソフト (株)

FORUM 8
フォーラムエイト

(株) フォーラムエイト

●●● 賛助会員 (3 ~ 9 口)

TIC
Telecommunication
Technology
Committee

(一社) 情報通信技術委員会

NTT DATA

(株) NTT データ

GREE

GREE (株)

Rakuten
Institute of Technology

楽天技術研究所

IA japan

(一財) インターネット協会

ISA

情報サービス産業協会

TREND MICRO

トレンドマイクロ (株)

NTTコムウェア

NTT コムウェア (株)

NTTテクノクロス

NTT テクノクロス (株)

uejima

(株) うえじま企画

OKI

沖電気工業 (株)

Canon

キヤノンマーケティングジャパン株式会社
キヤノンマーケティングジャパン (株)

CORE MICRO SYSTEMS INC.

コアマイクロシステムズ (株)

SANBI

三美印刷 (株)

SEPTENI

(株) セプテーニ

SONY

ソニー (株)

team Lab

チームラボ (株)

TECHNOPRO Design

(株) テクノプロ
テクノプロ・デザイン社

Panasonic

パナソニック (株)

MIZUHO みずほ情報総研

みずほ情報総研 (株)

レコチョク

(株) レコチョク

●●● 賛助会員 (2 口)

KDDI
KDDI R&D LABS

(株) KDDI 研究所

NEC
NECソリューションイノベータ

NEC ソリューション
イノベータ (株)

NTT AT

NTT アドバンステクノロジー (株)

SFC

三協印刷 (株)

JR
JR東日本

鉄道情報システム (株)

KCT

(株) ナレッジクリエーション
テクノロジー

JADAC

(一財) 日本データ
通信協会

日本規格協会
JSA

(一財) 日本規格協会

放送技術研究所

日本放送協会
放送技術研究所

HITACHI
Inspire the Next
日立システムズ

(株) 日立システムズ

インテル (株)

【A～Z】

(株) AndTech
Arithmer (株)
(株) ATJC
(株) ATR-Trek
bokk (株)
(株) CIJ
(株) CIJネクスト
(株) CyberOwl
合同会社 DMM.com
(株) DTS インサイト
freee (株)
GMO ペパボ(株)
(株) GV
(株) HBA
JapanTaxi (株)
JRC エンジニアリング(株)
(株) JR 東日本情報システム
(株) JTB 川崎支店
(株) K & S
(株) KDDI 総合研究所
MHI エアロスペースシステムズ(株)
NEC ソリューションイノベータ(株)
NEC ネットイノベーション(株)
NEC フィールディング(株)
NTT アドバンステクノロジー(株)
NTT コムウェア(株)
(株) NTT データ
(株) NTT データ・アイ
(株) NTT データ関西
(株) NTT データ九州
(株) NTT データ数理システム
(株) NTT データ東北
NTT テクノクロス(株)
(株) NTT ドコモ
(株) OKI ソフトウェア
(株) PFU
(株) QUICK
SCSK (株)
(株) Spelldata
TDC ソフト(株)
TIS (株)
(株) UNCOVER TRUTH
(株) U-NEXT
YKK (株)

【あ行】

アイアンドエルソフトウェア(株)
(株) アイヴィス
アイオイクス(株)
アイシン・エイ・ダブリュ (株)
アイシン精機(株)
アイシン・ソフトウェア(株)
(株) アイズファクトリー
(株) アイ・ピー・エス
アイホン(株)
(株) アイレップ

アシアル(株)
(株) アットウェア
アドソル日進(株)
(株) アドバンスト・メディア
(株) アドバンス トラフィック システムズ
アビームシステムズ(株)
(株) アピリッツ
(株) アルファシステムズ
(株) いい生活
池上通信機(株)
伊藤忠テクノソリューションズ(株)
インクリメント・ピー (株)
(一財) インターネット協会
(株) インテック
インテル(株)
インフォサイエンス(株)
(株) ヴァル研究所
ヴィスコ・テクノロジーズ(株)
(株) うえじま企画
(株) 駅探
(株) エクサ
エヌ・ディー・アール(株)
エヌビディア合同会社
(株) エム・オー・シー
(株) エルザジャパン
オークマ(株)
(株) 大塚商会
(株) オーム社
沖電気工業(株)
(株) 小野仁
オムロン(株)

【か行】

国立研究開発法人 科学技術振興機構
(公財) 画像情報教育振興協会
(学) 片柳学園日本工学院八王子専門学校
(学) 河合塾
関西テレビソフトウェア(株)
(一財) 機械振興協会
キャノン IT ソリューションズ(株)
キャノンマーケティングジャパン(株)
キャノンメディカルシステムズ(株)
共立出版(株)
(株) 近代科学社
グーグル合同会社
(株) クヌギ
グリー (株)
(株) グリットウェブ
(株) ぐるなび
(株) けいけい
経済産業省
(株) コア 中四国カンパニー
コアマイクロシステムズ(株)
(株) 構造計画研究所
国立国会図書館

(株) 小松製作所

【さ行】

(株) サイバーエージェント
(一財) 材料科学技術振興財団
サクサ(株)
サクシード(株)
三協印刷(株)
サン電子(株)
三美印刷(株)
三友工業(株)
(株) シーエーシー
システム・オートメーション(株)
(株) ジャステック
(株) ジャストイット
(株) ジャパンテクニカルソフトウェア
(一社) 情報サービス産業協会
(独) 情報処理推進機構
(一社) 情報通信技術委員会
新世代M2Mコンソーシアム
(株) 数理計画
(株) スカイディスク
スズキ(株)
住友化学(株)
住友電気工業(株)
(学) 聖学院
(株) セガゲームス
(株) セカンドセレクション
セコム(株)
(株) セブテーニ
(株) ソケット
ソニー (株)
(株) ソフトウェアコントロール
(一財) ソフトウェア情報センター
特許・技術情報センター
ソフトバンク(株)
(株) ソリトンシステムズ

【た行】

(株) タンタカ
チームラボ(株)
(株) 中電シーティーアイ
(一社) 中部産業連盟
中部電力(株)
通研電気工業(株)
(株) ディー・エヌ・エー
(株) ティーケーラボ
(株) ディスコ
(株) データグリッド
テクノスデータサイエンス・エンジニアリング(株)
(株) テクノプロ テクノプロ・デザイン社
デジタル・アドバタイジング・コンソーシアム(株)
(株) デジタルガレージ
デジタルプロセス(株)

鉄道情報システム(株)
(公財) 鉄道総合技術研究所
(公財) 電気通信普及財団
(一社) 電子情報技術産業協会
(株) 電盛社
(株) デンソー
(株) デンソー IT ソリューションズ
(株) デンソーアイティラボラトリ
(株) デンソークリエイト
(一財) 電力中央研究所
東海ソフト(株)
東海旅客鉄道(株)
(株) 東芝
東芝インフォメーションシステムズ(株)
東芝システムテクノロジー (株)
東芝情報システム(株)
東芝デジタルソリューションズ(株)
東芝マイクロエレクトロニクス(株)
(株) 働楽ホールディングス
(株) 東和システム
トヨー企画(株)
特許庁
(株) トヨタシステムズ
トヨタ自動車(株)
(株) 豊田中央研究所
トレンドマイクロ(株)
(株) ドワンゴ

【な行】

(株) ナレッジクリエーションテクノロジー
(株) ニコンシステム
西日本電信電話(株)
日鉄ソリューションズ(株)
日鉄日立システムエンジニアリング(株)
日本アルゴリズム(株)
日本精工(株) (NSK)
(一財) 日本データ通信協会
日本電気(株)
(株) 日本電気特許技術情報センター
日本電信電話(株)
日本アイ・ピー・エム(株)
(公社) 日本化学会
(一財) 日本規格協会
日本銀行
国立研究開発法人 日本原子力研究開発機構
日本システム開発(株)
(一財) 日本情報経済社会推進協会
(一社) 日本情報システム・ユーザー協会
日本電子計算(株)
(一財) 日本品質保証機構
日本放送協会 放送技術研究所
日本マイクロソフト(株)

日本無線(株)	(株)日立ソリューションズ西日本	みずほ情報総研(株)	ヤフー(株) Yahoo! JAPAN 研究
日本ユニシス(株)	(株)日立ソリューションズ東日本	三井情報(株)	所
(株)野村総合研究所	(株)ビッグツリーテクノロジー&コ ンサルティング	(株)ミックナイン	ヤマハ(株)
【は行】	(株)ファースト	(株)ミットヨ	【ら行】
パーソルキャリア(株)	(株)フィックスターズ	(株)三菱UFJ銀行	楽天(株)
(株)ハイエレクト	フェアリーデバイズ(株)	(株)三菱UFJトラスト投資工学	合同会社ラビッツ
(有)バクサリー	(株)フォーカスシステムズ	三菱UFJモルガン・スタンレー証 券(株)	リードエグジビションジャパン(株)
パナソニック(株)	(株)フォーラムエイト	三菱スペース・ソフトウェア(株)	(株)リクルート
パナソニック(株) ライフソリュー ションズ社	富士通(株)	三菱電機(株)	(株)リコー
バルテス(株)	(株)富士通アドバンストエンジ アリング	三菱電機インフォメーションシステ ムズ(株)	(株)リックテレコム
(株)半導体エネルギー研究所	(株)富士通エフサス	三菱電機インフォメーションネット ワーク(株)	(株)両備システムズ
(株)ビービット	(株)富士通九州システムズ	三菱電機コントロールソフトウェ ア(株)	(株)リンク
(株)ビズヒット	(株)富士通ソーシャルサイエンス ラボラトリ	三菱電機メカトロニクスソフトウェ ア(株)	(株)レコチョク
(株)日立インフォメーションエンジ ニアリング	富士フイルム(株)	三菱プレジジョン(株)	<入会予定>
(株)日立国際電気	フューチャー(株)	武蔵野美術大学	(株)PLAY
(株)日立産業制御ソリューション ズ	古野電気(株)	(株)メイテツコム	
(株)日立システムズ	北陸コンピュータ・サービス(株)	モバイルコンピューティング推進コ ンソーシアム(MCPC)	
(株)日立社会情報サービス	(株)堀場製作所		
(株)日立製作所	(株)本田技術研究所 R&D セン ター X		
(株)日立製作所 中国支社	【ま行】	【や行】	
(株)日立ソリューションズ	(株)牧野フライス製作所	(株)安川電機	
(株)日立ソリューションズ・クリエ イト	マツダ(株)		

注) 一般社団法人・一般財団法人・公益
社団法人・公益財団法人はそれぞれ (一
社)・(一財)・(公社)・(公財) と省略した。

協力協定学会との正会員会費相互割引について

各学協会との協定により、正会員会費が割引になります。ぜひ、ご活用ください。
 本会 Web ページ (<https://www.ipsj.or.jp/member/kyoryoku.html>) にも掲載しております。

●協力協定学会名・相互割引率 (正会員会費が割引対象)

IEEE	(The Institute of Electrical and Electronics Engineers, Inc.)	10%
IEEE-CS	(IEEE Computer Society)	10%
ACM	(Association for Computing Machinery)	20%
CSI	(Computer Society of India)	20%

※協力協定学会の会員費割引については、海外関連団体 (https://www.ipsj.or.jp/annai/kanrenlink/os_relation.html) を
 ご参照いただき、直接お問い合わせください。

●本会への申請方法

会費割引を希望する正会員は、マイページの「登録情報変更」で「会員相互割引」の協定学会名から1つ選択し、その会員番号を入力します。
 初めて申請する方は上記協力協定各学会正会員の会員証コピーを Fax 等で送ってください。割引適用は1学会分といたします。
 自動継続のため次回からは会員証のコピーは不要です。

※これから入会を希望する方も入会申込 [本申請] の画面から同様に申請できます。

- ・マイページはこちら⇒ <https://www.ipsj.or.jp/mypage.html>
- ・入会申請はこちら⇒ https://www.ipsj.or.jp/nyukai_kojin.html

■照会先：会員サービス部門 E-mail: mem@ipsj.or.jp Tel(03)3518-8370 Fax(03)3518-8375